

注3

大学番号：私立052

[令和2年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

文教大学 教育学部 発達教育課程

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人文教大学学園  
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 越谷校舎事務局総務課

職名・氏名 カチヨウ アオシマ ユカ  
課長 青島 由佳

電話番号 048-974-8811

（夜間）

F A X 048-974-9439

e-mail ksoumu@stf.bunkyo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 教育学部

＜発達教育課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	31

## 添付資料

1. 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	34
2. 文教大学教育研究推進センター規程	37

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 文教大学学園

## (2) 大学名

文教大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒343-8511

埼玉県越谷市大字南荻島3337番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ノジマ マサヤ) 野島 正也 (平成28年5月)		
学長	(コンドウ ケンジ) 近藤 研至 (平成29年4月)		
学部長	(イデイ マサヒコ) 出井 雅彦 (平成29年4月)		
課程長等	(アイザワ ノブヒコ) 会沢 信彦 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)  
令和2年度に報告する内容 → (2)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学部 発達教育課程 学士(教育学)	教育学・保育学 関係	年 4	人 150	年次 人	人 600	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 150 ( - ) [ - ]	人 ( - ) [ - ]	1.01倍	-	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	2075 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	1947 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	396 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	151 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
入学定員超過率 B/A											1.01				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次									151 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	
2年次											
3年次											
4年次											
計									151 [ - ] ( - )		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留學生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	151 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合計		0 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の数値を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の数値については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{151} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<教育学部 発達教育課程>

(1)-① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 教養科目	宗教学	1-2-4E	2								1
	哲学	1-2-4E	2								1
	倫理学	1-2-3-4E	2								1
	文学	1-2-4E	2								2
	歴史学	1-2-4E	2								1
	論理学	1-2-4E	2								1
	音楽	1-2-4E	2								2
	美術	1-2-4E	2								1
	心理学	1-2-4E	2								4
	言語学	1-2-4E	2								1
	法律学	1-2-3-4E	2								1
	政治学	1-2-4E	2								1
	経済学	1-2-4E	2								2
	日本国憲法	1-2-4E	2								1
	社会学	1-2-4E	2								1
	文化人類学	1-2-4E	2								1
	地理学	1-2-4E	2								1
	教育学	1-2-3-4E	2								2
	国際学	1-2-3-4E	2								1
	科学思想史	1-2-3-4E	2								1
	数学	1-2-3-4E	2								1
	物理学	1-2-3-4E	2								1
	化学	1-2-4E	2								1
	生態学	1-2-4E	2								1
	生物学	1-2-4E	2								1
	生理学	1-2-4E	2								1
	宇宙地球科学	1-2-3-4E	2								1
総合講座Ⅰ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅱ	1-2-3-4E	2				8	2	1		1	
総合講座Ⅲ	1-2-4E	2								1	
総合講座Ⅳ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅴ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅵ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅶ	1-2-3-4E	2								1	
情報 科目	情報基礎	1-2-3-4E	2					1			1
	情報活用	1-2-3-4E	2								1
	情報A	1-2-4E	2								1
	情報B	1-2-4E	2								1
	情報C	1-2-3-4E	2								1
	情報D	1-2-4E	2								1
情報E	1-2-3-4E	2								1	
小計(41科目)	—	—	6	76	0	8	2	2	0	0	60
外国 語科目	必修科目										
	英語Ⅰ	1前	2								3
	英語Ⅱ	1後	2								3
	英語Ⅲ	2前	2								1
	英語Ⅳ	2後	2								1
	ドイツ語Ⅰ	2前	2								2
	ドイツ語Ⅱ	2後	2								2
	フランス語Ⅰ	2前	2								2
	フランス語Ⅱ	2後	2								2
	中国語Ⅰ	2前	2								1
	中国語Ⅱ	2後	2								1
コリア語Ⅰ	2前	2								1	
コリア語Ⅱ	2後	2								1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 教養科目	宗教学	1-2-4E	2								1
	哲学	1-2-4E	2								1
	倫理学	1-2-3-4E	2								1
	文学	1-2-4E	2								2
	歴史学	1-2-4E	2								1
	論理学	1-2-4E	2								1
	音楽	1-2-4E	2								2
	美術	1-2-4E	2								1
	心理学	1-2-4E	2								4
	言語学	1-2-4E	2								1
	法律学	1-2-3-4E	2								1
	政治学	1-2-4E	2								1
	経済学	1-2-4E	2								2
	日本国憲法	1-2-4E	2								1
	社会学	1-2-4E	2								1
	文化人類学	1-2-4E	2								1
	地理学	1-2-4E	2								1
	教育学	1-2-3-4E	2								2
	国際学	1-2-3-4E	2								1
	科学思想史	1-2-3-4E	2								1
	数学	1-2-3-4E	2								1
	物理学	1-2-3-4E	2								1
	化学	1-2-4E	2								1
	生態学	1-2-4E	2								1
	生物学	1-2-4E	2								1
	生理学	1-2-4E	2								1
	宇宙地球科学	1-2-3-4E	2								1
総合講座Ⅰ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅱ	1-2-3-4E	2				8	2	1		1	
総合講座Ⅲ	1-2-4E	2								1	
総合講座Ⅳ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅴ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅵ	1-2-3-4E	2								1	
総合講座Ⅶ	1-2-3-4E	2								1	
情報 科目	情報基礎	1-2-3-4E	2					1			1
	情報活用	1-2-3-4E	2								1
	情報A	1-2-4E	2								1
	情報B	1-2-4E	2								1
	情報C	1-2-3-4E	2								1
	情報D	1-2-4E	2								1
情報E	1-2-3-4E	2								1	
小計(41科目)	—	—	6	76	0	8	2	2	0	0	60
外国 語科目	必修科目										
	英語Ⅰ	1前	2								3
	英語Ⅱ	1後	2								3
	英語Ⅲ	2前	2								1
	英語Ⅳ	2後	2								1
	ドイツ語Ⅰ	2前	2								2
	ドイツ語Ⅱ	2後	2								2
	フランス語Ⅰ	2前	2								2
	フランス語Ⅱ	2後	2								2
	中国語Ⅰ	2前	2								1
	中国語Ⅱ	2後	2								1
コリア語Ⅰ	2前	2								1	
コリア語Ⅱ	2後	2								1	









科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	学校経営と学校図書館	4後			2						1	
	学校図書館メディアの構成	4前・後			2						1	
	学習指導と学校図書館	4前・後			2						1	
	読書と豊かな人間性	4前・後			2						1	
	情報メディアの活用	4前・後			2						1	
	小計(5科目)	—	0	0	10	0	0	0	0	0	5	
合計(243科目)			—	72	326	58	116	36	22	0	0	176
卒業要件及び履修方法												
卒業要件として、共通教養科目12単位(必修2単位、選択必修6単位、情報科目4単位)、外国語科目8単位(必修4単位、選択必修4単位)、体育科目2単位、学部共通科目10単位(必修4単位、選択必修6単位)、専門教育科目92単位(必修56単位、選択必修36単位)、合計124単位を取得すること。 年間の履修科目の上限は50単位とし、一定の成績基準を満たした者には緩和措置を行う。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	学校経営と学校図書館	4後			2						1	
	学校図書館メディアの構成	4前・後			2						1	
	学習指導と学校図書館	4前・後			2						1	
	読書と豊かな人間性	4前・後			2						1	
	情報メディアの活用	4前・後			2						1	
	小計(5科目)	—	0	0	10	0	0	0	0	0	5	
合計(243科目)			—	70	330	58	122	27	22	0	0	181
卒業要件及び履修方法												
卒業要件として、共通教養科目12単位(必修2単位、選択必修6単位、情報科目4単位)、外国語科目8単位(必修4単位、選択必修4単位)、体育科目2単位、学部共通科目10単位(必修4単位、選択必修6単位)、専門教育科目92単位(必修56単位、選択必修36単位)、合計124単位を取得すること。 年間の履修科目の上限は50単位とし、一定の成績基準を満たした者には緩和措置を行う。												

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 担当者の職位変更により、「総合講座Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授8」「准教授2」「講師1」から「教授9」「准教授1」「講師1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授12」「准教授5」「講師2」から「教授13」「准教授4」「講師2」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「専門演習D」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「教育方法の理論と実践」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「教育課程概論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、「生徒指導・進路指導」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目「教育相談の理論と方法(幼児理解を含む)」の科目区分を必修から選択に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目「教育相談の理論と方法」を追加
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「幼稚園教育実習Ⅰ」を「幼小教育実習Ⅰ」に、「幼稚園教育実習Ⅱ」を「幼小教育実習Ⅱ」に、「小学校教育実習」を「幼小教育実習Ⅲ」に、それぞれ変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、「生活科教育」の教員配置を「教授1」「准教授1」から「准教授1」へ変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「知的障害・重複障害児の心理と行動」から「知的障害児の発達と心理」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「障害児の心理と発達」から「知的障害児の生理・病理」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「病弱児・知的障害児の生理と病理」から「病弱児の心理・生理・病理」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「肢体不自由児の生理と病理」から「肢体不自由児の心理・生理・病理」に変更し、教員配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼担1」へ変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「知的障害・発達障害児の心理臨床」から「発達障害・重複障害児教育総論」に変更し、教員配置を「教授1」から「教授1」「兼任・兼担1」へ変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「視覚障害児の指導」から「視覚障害児教育総論」に変更し、単位数を1単位から2単位に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目「発達障害児の心理臨床」を削除
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「障害児教育方法」から「知的障害児の指導」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「病弱・重複障害児の心理と指導」から「病弱児の指導」に変更し、教員配置を「教授1」から「兼任・兼担1」へ変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「肢体不自由児の心理と指導」から「肢体不自由児の指導」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「聴覚障害児の指導」から「聴覚障害児教育総論」に変更し、単位数を1単位から2単位に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目の名称を「心理検査法」から「知的障害児の心理アセスメント」に変更
- ・ 担当者の職位変更により、「初等連携カリキュラム論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「教育フィールド研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「教育フィールド研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 担当者の職位変更により、「学習指導論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目「保育内容「言葉」の指導法」の教員配置を「教授1」から「兼任・兼担1」へ変更

- (注)・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
42 科目	170 科目	31 科目	243 科目	41 科目 [ △1 ]	171 科目 [ +1 ]	31 科目 [ - ]	243 科目 [ - ]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	発達障害児の心理臨床	2	3	専門	選択	教職課程認定審査の指摘による。
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専門教育科目の選択科目「発達障害児の心理臨床」は、特別支援学校教諭一種免許状の課程認定審査において指摘を受けたため、カリキュラムから削除したが、2020年度からの新しいカリキュラムであるため、教育課程に影響はなく、学生への周知も不要と考えている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{243} = \boxed{0.41} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※校地等(その他) ①緑地借用地 4,796.0㎡ -借用期間- 2年 ②緑地駐輪場借用地 4,965.0㎡ -借用期間- 2年 ③駐車場借用地 2,719.0㎡ -借用期間- 3年 ④駐車場借用地 570㎡ -借用期間- 3年 ⑤駐輪場借用地 2,058.0㎡ -借用期間- 3年						
	校 舎 敷 地	159,377.00㎡	0㎡	0㎡	159,377.00㎡							
	運動場用地	58,846.00㎡	0㎡	0㎡	58,846.00㎡							
	小 計	218,223.00㎡	0㎡	0㎡	218,223.00㎡							
	そ の 他	15,108.00㎡	0㎡	0㎡	15,108.00㎡							
	合 計	233,331.00㎡	0㎡	0㎡	233,331.00㎡							
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体						
		75,081.64㎡ (75,081.64㎡)	0㎡ ( 0 ㎡)	0㎡ ( 0 ㎡)	75,081.64㎡ (75,081.64㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体						
	127室	47室	74室	19室 (補助職員 18人)	8室 (補助職員 3人)							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数								
	教育学部 発達教育課程			10 室								
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	学部単位での特定不能 のため、大学全体の数				
		発達教育課程	713,231 [77,548]	8,088 [1,749]					7,288 [5,812]	10,716	-	-
			713,231 [77,548]	8,088 [1,749]					7,288 [5,812]	10,716	(-)	(-)
		計	713,231 [77,548]	8,088 [1,749]					7,288 [5,812]	10,716	-	-
713,231 [77,548]	8,088 [1,749]		7,288 [5,812]	10,716	(-)	(-)						
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体					
	8,185.47㎡		1,002席		608,000冊							
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体					
	5,127.37㎡		プ ー ル		弓 道 場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学部全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。			
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	4,470千円	4,101千円	4,101千円				
		共同研究費等	6,030千円	5,670千円	設備購入費	14,474千円	53,492千円	15,795千円				
	学生1人当り納付金	第1年次 1,387千円	第2年次 1,119千円	第3年次 1,131千円	第4年次 1,143千円	第5年次	第6年次					
	学生納付金以外の維持方法の概要	補助金収入、手数料収入、資産運用収入、事業収入、雑収入等										

・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。

・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		文教大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度	
人間科学研究科 臨床心理学専攻(博士課程)	3	2	-	6	博士(心理学)	0.00		平成12年度	埼玉県越谷市大字南萩島字出津3337番地	
臨床心理学専攻(修士課程)	2	20	-	40	修士(心理学)	0.41		平成5年度	同上	
人間科学専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(人間科学)	0.16		平成17年度	同上	
言語文化研究科 言語文化専攻(博士課程)	3	2	-	6	博士(文学)	0.33		平成24年度	同上	
言語文化専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(文学)	0.63		平成11年度	同上	
教育学研究科 学校教育専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(学校教育)	0.10		平成19年度	同上	
情報学研究科 情報学専攻(修士課程)	2	6	-	12	修士(情報学)	0.55		平成17年度	神奈川県茅ヶ崎市行谷字大島1100番地	
国際協力学研究科 国際協力学専攻(修士課程)	2	-	-	-	修士(国際協力学)	-		平成17年度	同上	平成27年4月 学生募集停止
国際学研究科 国際学専攻(修士課程)	2	5	-	10	修士(国際学)	0.40		平成27年度	同上	平成27年4月設置
大学院全体	-	65	-	134	-	-		-	-	-
大学の名称		文教大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
教育学部 学校教育課程	4	200	-	800	学士(教育学)	1.14		昭和44年度	埼玉県越谷市大字南萩島字出津3337番地	令和2年4月 入学定員減(△50)
心理教育課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-		平成15年度	同上	令和2年4月 学生募集停止
発達教育課程	4	150	二	600	学士(教育学)	1.00		令和2年	同上	令和2年4月設置
人間科学部 人間科学科	4	140	-	560	学士(人間科学)	1.04		昭和51年度	同上	
臨床心理学科	4	120	-	480	学士(人間科学)	1.06		平成10年度	同上	
心理学科	4	140	-	560	学士(人間科学)	1.11		平成20年度	同上	
文学部 日本語日本文学科	4	120	-	480	学士(文学)	1.00		昭和62年度	同上	平成29年度4月 入学定員減(△10)
英米語英米文学科	4	100	-	400	学士(文学)	1.06		昭和62年度	同上	平成29年度4月 入学定員減(△30)
中国語中国文学科	4	70	-	280	学士(文学)	1.23		昭和62年度	同上	平成29年度4月 入学定員減(△30)
外国語学科	4	70	二	280	学士(文学)	1.13	二	平成29年度	同上	平成29年4月設置
情報学部 情報システム学科	4	95	-	380	学士(情報学)	1.09		昭和55年度	神奈川県茅ヶ崎市行谷字大島1100番地	平成26年4月 入学定員減(△55)
情報社会学科	4	95	-	380	学士(情報学)	1.08		平成26年度	同上	平成26年4月設置
メディア表現学科	4	95	-	380	学士(情報学)	1.10		平成26年度	同上	平成26年4月設置
広報学科	4	-	-	-	学士(情報学)	-		昭和55年度	同上	平成26年4月 学生募集停止
経営情報学科	4	-	-	-	学士(情報学)	-		昭和55年度	同上	平成26年4月 学生募集停止
国際学部 国際理解学科	4	120	-	480	学士(国際学)	1.11		平成12年度	同上	
国際観光学科	4	125	-	500	学士(国際学)	1.13		平成12年度	同上	
健康栄養学部 管理栄養学科	4	100	-	400	学士(栄養学)	1.06		平成22年度	同上	
経営学部 経営学科	4	165	-	660	学士(経営学)	1.10		平成26年度	同上	平成26年4月設置
大学全体	-	1905	-	7620	-	1.09		-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。  
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 発達教育課程>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	会沢 信彦 (54) <令和2年10月> 教育学修士※
		カウンセリング 総合講座Ⅱ※ カウンセリング演習 専門演習A 教育相談の理論と方法(幼児理解を含む) 卒業研究 保育・教職実践演習(幼・小)
専	教授	石川 洋子 (66) <令和2年4月> 家政学修士
		保育原理 総合講座Ⅱ※ 保育実地研究Ⅰ 保育者論 子ども家庭支援論 保育の計画と評価 保育実践研究 子育て支援 保育内容「人間関係」の指導法 保育内容総論 専門演習A 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育所実習 保育実習Ⅱ 保育所実習 保育実地研究Ⅱ
専	教授	井上(相川) 清子 (55) <令和2年4月> 博士(医学)
		臨床心理学 総合講座Ⅱ※ 心理アセスメント実習Ⅰ 心理アセスメント実習Ⅱ 心理療法
専	教授	小倉 隆一郎 (69) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「音楽」 器楽表現基礎Ⅰ 総合講座Ⅱ※ 音楽科教育 幼児と表現A(音楽) 器楽伴奏法Ⅱ 器楽伴奏法Ⅰ 専門演習B 卒業研究
専	教授	小野里(小林) 美帆 (49) <令和2年4月> 博士(心身障害学)
		特別支援教育概論※ 障害児の心理と発達 知的障害・重複障害児の心理と行動 総合講座Ⅱ※ 知的障害・発達障害児の心理臨床 知的障害児の行動理解 発達障害児の心理臨床 障害児保育 心理検査法 専門演習A 卒業研究 障害児の個別指導計画

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	会沢 信彦 (54) <令和2年10月> 教育学修士※
		カウンセリング 総合講座Ⅱ※ カウンセリング演習 専門演習A 教育相談の理論と方法(幼児理解を含む) <b>教育相談の理論と方法</b> 卒業研究 保育・教職実践演習(幼・小)
専	教授	石川 洋子 (66) <令和2年4月> 家政学修士
		保育原理 総合講座Ⅱ※ 保育実地研究Ⅰ 保育者論 子ども家庭支援論 保育の計画と評価 保育実践研究 子育て支援 保育内容「人間関係」の指導法 保育内容総論 専門演習A 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育所実習 保育実習Ⅱ 保育所実習 保育実地研究Ⅱ
専	教授	井上(相川) 清子 (55) <令和2年4月> 博士(医学)
		臨床心理学 総合講座Ⅱ※ 心理アセスメント実習Ⅰ 心理アセスメント実習Ⅱ 心理療法
専	教授	小倉 隆一郎 (69) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「音楽」 器楽表現基礎Ⅰ 総合講座Ⅱ※ 音楽科教育 幼児と表現A(音楽) 器楽伴奏法Ⅱ 器楽伴奏法Ⅰ 専門演習B 卒業研究
専	教授	小野里(小林) 美帆 (49) <令和2年4月> 博士(心身障害学)
		特別支援教育概論※ <b>知的障害児の発達と心理</b> 総合講座Ⅱ※ <b>発達障害・重複障害児教育総論※</b> 知的障害児の行動理解 障害児保育 <b>知的障害児の心理アセスメント</b> <b>知的障害児の指導</b> 専門演習A 卒業研究 障害児の個別指導計画



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小幡 肇 (65) <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科概説「生活」 幼児と環境 総合講座Ⅱ※ 教育課題演習 幼小接続教育内容論A 生活科教育 教育実践研究 生活科・総合的学習教育論 保育内容「環境」の指導法 専門演習B 卒業研究
専	教授	小林 稔 (56) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「体育」 体育科教育 専門演習B 小学校教育実地研究 卒業研究
専	教授	佐々木 順二 (47) <令和2年4月> 博士(心身障害学)
		特別支援教育概論※ 障害児教育総論 障害児教育思想史 障害児教育の歴史 障害児福祉学 障害児教育方法 専門演習B 卒業研究 障害児教育実地研究
専	教授	高井 和夫 (49) <令和2年4月> 博士(体育科学)
		運動と健康Ⅰ 基礎演習 運動と健康Ⅱ 教科概説「体育」 幼児と健康 総合講座Ⅱ※ 身体表現演習 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ  保育内容「健康」の指導法 専門演習C 卒業研究
専	教授	太郎良 信 (68) <令和2年4月> 教育学修士※
		教育原理 教職概論 総合講座Ⅱ※ 専門演習A 卒業研究
専	教授	成田 奈緒子 (57) <令和2年4月> 博士(医学)
		特別支援教育概論※ 子どもの保健 病弱児・知的障害児の生理と病理 小児保健学 肢体不自由児の生理と病理 病弱・重複障害児の心理と指導 専門演習C 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小幡 肇 (65) <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科概説「生活」 幼児と環境 総合講座Ⅱ※ 教育課題演習 幼小接続教育内容論A  教育実践研究 生活科・総合的学習教育論 保育内容「環境」の指導法 専門演習B 卒業研究
専	教授	小林 稔 (56) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「体育」 体育科教育 専門演習B 小学校教育実地研究 卒業研究
専	教授	佐々木 順二 (47) <令和2年4月> 博士(心身障害学)
		特別支援教育概論※ 障害児教育総論 障害児教育思想史 障害児教育の歴史 障害児福祉学  専門演習B 卒業研究 障害児教育実地研究
専	教授	高井 和夫 (49) <令和2年4月> 博士(体育科学)
		運動と健康Ⅰ 基礎演習 運動と健康Ⅱ 教科概説「体育」 幼児と健康 総合講座Ⅱ※ 身体表現演習 <b>幼小教育実習Ⅰ</b> <b>幼小教育実習Ⅱ</b> <b>幼小教育実習Ⅲ</b> 保育内容「健康」の指導法 専門演習C 卒業研究
専	教授	太郎良 信 (68) <令和2年4月> 教育学修士※
		教育原理 教職概論 総合講座Ⅱ※ 専門演習A 卒業研究
専	教授	成田 奈緒子 (57) <令和2年4月> 博士(医学)
		特別支援教育概論※ 子どもの保健 <b>病弱児の心理・生理・病理</b> 小児保健学 <b>肢体不自由児の心理・生理・病理※</b>  専門演習C 卒業研究 <b>知的障害児の生理・病理</b>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤森 裕治 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科概説「国語」 幼児と言葉 幼小接続教育内容論B 国語科教育 教科・教材論 保育内容「言葉」の指導法 専門演習C 卒業研究
専	教授	八藤後 忠夫 (67) <令和2年4月> 保健学修士※
		語りの技法 精神医学Ⅱ 精神医学Ⅰ 特別支援教育概論※ 総合講座Ⅱ※ 障害児教育社会学 専門演習D 卒業研究 障害児教育実習
専	准教授	浅野 信彦 (47) <令和2年4月> 修士(教育学)※
		総合講座Ⅱ※ 教育フィールド研究Ⅰ 教育フィールド研究Ⅱ 教育方法の理論と実践 初等連携カリキュラム論 教育課程概論 学習指導論 専門演習D 卒業研究
専	准教授	大月 和彦 (54) <令和2年10月> 修士(社会福祉学)
		総合講座Ⅱ※ 保育実地研究Ⅰ 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅰ 社会福祉概論 社会的養護Ⅱ 保育実習Ⅰ施設実習 専門演習E 卒業研究 保育実習Ⅲ施設実習
専	准教授	小野澤 美明子 (60) <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科概説「生活」 幼児と人間関係 生活科教育 専門演習D 卒業研究
専	准教授	佐藤 晋平 (39) <令和2年4月> 博士(教育学)
		教育行財政(教育法規を含む) 学校教育論 専門演習E 卒業研究 小学校教育実習
専	准教授	宮野 周 (41) <令和2年4月> 修士(学校教育学)
		教科概説「図画工作」 幼児と表現B(図画工作) 図画工作科教育 造形表現演習 保育内容「表現」の指導法 専門演習E 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤森 裕治 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科概説「国語」 幼児と言葉 幼小接続教育内容論B 国語科教育 教科・教材論  専門演習C 卒業研究
専	教授	八藤後 忠夫 (67) <令和2年4月> 保健学修士※
		語りの技法 精神医学Ⅱ 精神医学Ⅰ 特別支援教育概論※ 総合講座Ⅱ※ 障害児教育社会学 専門演習D 卒業研究 障害児教育実習
専	教授	浅野 信彦 (47) <令和2年4月> 修士(教育学)※
		総合講座Ⅱ※ 教育フィールド研究Ⅰ 教育フィールド研究Ⅱ 教育方法の理論と実践 初等連携カリキュラム論 教育課程概論 学習指導論 専門演習D 卒業研究
専	准教授	大月 和彦 (54) <令和2年10月> 修士(社会福祉学)
		総合講座Ⅱ※ 保育実地研究Ⅰ 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅰ 社会福祉概論 社会的養護Ⅱ 保育実習Ⅰ施設実習 専門演習E 卒業研究 保育実習Ⅲ施設実習
専	准教授	小野澤 美明子 (60) <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科概説「生活」 幼児と人間関係 生活科教育 専門演習D 卒業研究
専	准教授	佐藤 晋平 (39) <令和2年4月> 博士(教育学)
		教育行財政(教育法規を含む) 学校教育論 専門演習E 卒業研究 幼小教育実習Ⅲ 幼小教育実習Ⅰ 幼小教育実習Ⅱ
専	准教授	宮野 周 (41) <令和2年4月> 修士(学校教育学)
		教科概説「図画工作」 幼児と表現B(図画工作) 図画工作科教育 造形表現演習 保育内容「表現」の指導法 専門演習E 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	桑原(泉水) 千明 (37) ＜令和2年4月＞ 修士(心理学)
		心理学概論 乳幼児心理学 教育心理学概論 <small>発達と学習の心理学Ⅰ(パーソナリティと社会性)</small> 教育心理学基礎実験 子ども家庭支援の心理学 発達援助論 子どもの理解と援助 教育心理学研究法 卒業研究 保育・教職実践演習(幼・小)
専	講師	清水 邦彦 (38) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		情報基礎 基礎演習 教科概説「算数」 総合講座Ⅱ※ 教育課題演習 教育メディア論 教育と情報 算数科教育 卒業研究
兼任	教授	石井 勉 (55) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		数学 算数科教育
兼任	教授	石橋 昭良 (66) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		心理学
兼任	教授	出井 雅彦 (66) ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		総合講座Ⅰ※
兼任	教授	大木(鈴木) 桃代 (55) ＜令和2年10月＞ 文学修士※
		心理学
兼任	教授	大島 丈志 (46) ＜令和2年10月＞ 博士(文学)
		文学
兼任	教授	岡村 達也 (65) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		心理学
兼任	教授	加藤 理 (59) ＜令和2年10月＞ 博士(文学)
		教育学 教育思想史 児童文化論
兼任	教授	金森 強 (59) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科概説「英語」 英語教育
兼任	教授	紙 宏行 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		総合講座Ⅴ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	桑原(泉水) 千明 (37) ＜令和2年4月＞ 修士(心理学)
		心理学概論 乳幼児心理学 教育心理学概論 <small>発達と学習の心理学Ⅰ(パーソナリティと社会性)</small> 教育心理学基礎実験 子ども家庭支援の心理学 発達援助論 子どもの理解と援助 教育心理学研究法 卒業研究 保育・教職実践演習(幼・小)
専	講師	清水 邦彦 (38) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		情報基礎 基礎演習 教科概説「算数」 総合講座Ⅱ※ 教育課題演習 教育メディア論 教育と情報 算数科教育 卒業研究
兼任	教授	石井 勉 (55) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		数学 算数科教育
兼任	准教授	鍛冶 美幸 (54) ＜令和2年4月＞ 博士(臨床心理学)
		心理学
兼任	教授	出井 雅彦 (66) ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		総合講座Ⅰ※
兼任	教授	大木(鈴木) 桃代 (55) ＜令和2年10月＞ 文学修士※
		心理学
兼任	教授	大島 丈志 (46) ＜令和2年10月＞ 博士(文学)
		文学
兼任	教授	岡村 達也 (65) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		心理学
兼任	教授	加藤 理 (59) ＜令和2年10月＞ 博士(文学)
		教育学 教育思想史 児童文化論
兼任	教授	金森 強 (59) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教科概説「英語」 英語教育
兼任	教授	紙 宏行 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		総合講座Ⅴ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	久保村 里正 (51) <令和3年10月> 博士(学術)
		鑑賞教育※
兼任	教授	佐藤 正伸 (52) <令和2年10月> 体育学修士
		総合講座Ⅶ※
兼任	教授	白石 和夫 (66) <令和2年4月> 理学修士※
		総合講座Ⅲ※
兼任	教授	高橋 克巳 (56) <令和3年4月> 教育学修士※
		生徒指導・進路指導
兼任	教授	田積 徹 (51) <令和2年4月> 博士(心理学)
		心理学
兼任	教授	千葉 聡子 (59) <令和2年4月> 文学修士※
		生涯学習論(ボランティア論を含む) 総合講座Ⅳ※ 教育社会学
兼任	教授	手嶋 將博 (57) <令和2年4月> 修士(教育学)※
		国際理解教育 海外教育研修 海外教育実地研究
兼任	教授	豊泉 清浩 (63) <令和3年4月> 博士(教育学)
		道徳教育の理論と方法
兼任	教授	長島 雅裕 (49) <令和2年4月> 博士(理学)
		物理学 総合講座Ⅰ※
兼任	教授	中村 博一 (59) <令和2年4月> 文学修士※
		文化人類学
兼任	教授	中本 敬子 (48) <令和2年4月> 博士(文学)
		教育心理学概論 心理統計学 発達と学習の心理学Ⅱ(認知発達)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	久保村 里正 (51) <令和3年10月> 博士(学術)
		鑑賞教育※
兼任	教授	佐藤 正伸 (52) <令和2年10月> 体育学修士
		総合講座Ⅶ※
兼任	教授	白石 和夫 (66) <令和2年4月> 理学修士※
		総合講座Ⅲ※
兼任	教授	高橋 克巳 (56) <令和3年4月> 教育学修士※
		生徒指導・進路指導※
兼任	教授	新井 立夫 (59) <令和3年4月> 商学士
		生徒指導・進路指導※
兼任	教授	田積 徹 (51) <令和2年4月> 博士(心理学)
		心理学
兼任	教授	千葉 聡子 (59) <令和2年4月> 文学修士※
		生涯学習論(ボランティア論を含む) 総合講座Ⅳ※ 教育社会学
兼任	教授	手嶋 將博 (57) <令和2年4月> 修士(教育学)※
		国際理解教育 海外教育研修 海外教育実地研究
兼任	教授	豊泉 清浩 (63) <令和3年4月> 博士(教育学)
		道徳教育の理論と方法
兼任	教授	長島 雅裕 (49) <令和2年4月> 博士(理学)
		物理学 総合講座Ⅰ※
兼任	教授	中村 博一 (59) <令和2年4月> 文学修士※
		文化人類学
兼任	教授	中本 敬子 (48) <令和2年4月> 博士(文学)
		教育心理学概論 心理統計学 発達と学習の心理学Ⅱ(認知発達)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	福田 はぎの (69) <令和2年4月> 農学修士※
		経済学 教科概説「家庭」
兼任	教授	三木 一彦 (49) <令和2年4月> 博士(文学)
		地理学
兼任	教授	谷島 弘仁 (55) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学校心理学
兼任	教授	山縣 朋彦 (64) <令和2年4月> 理学博士
		宇宙地球科学 総合講座I※
兼任	教授	山下 英愛 (60) <令和2年4月> 博士(国際関係学)
		総合講座V※
兼任	准教授	石黒 美男 (52) <令和2年4月> 修士(教育学)
		美術 鑑賞教育※
兼任	准教授	大久保 智睦 (41) <令和3年10月> 博士(美術)
		鑑賞教育※
兼任	准教授	亀田 裕見 (51) <令和2年10月> 修士(文学)※
		総合講座VII※
兼任	准教授	小林 秀明 (59) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「理科」 理科教育
兼任	准教授	平 正人 (50) <令和2年4月> 博士(文学)
		歴史学 総合講座VI※
兼任	准教授	二宮 雅也 (42) <令和2年10月> 修士(体育学)
		総合講座VI※
兼任	准教授	福田 スティーブ利久 (42) <令和3年4月> Doctor of Education(米国)
		英語教育
兼任	准教授	船山 智代 (52) <令和2年4月> 博士(理学)
		科学思想史 総合講座I※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	福田 はぎの (69) <令和2年4月> 農学修士※
		経済学 教科概説「家庭」
兼任	教授	三木 一彦 (49) <令和2年4月> 博士(文学)
		地理学
兼任	教授	谷島 弘仁 (55) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学校心理学
兼任	教授	山縣 朋彦 (64) <令和2年4月> 理学博士
		宇宙地球科学 総合講座I※
兼任	教授	山下 英愛 (60) <令和2年4月> 博士(国際関係学)
		総合講座V※
兼任	教授	石黒 美男 (52) <令和2年4月> 修士(教育学)
		美術 鑑賞教育※
兼任	准教授	大久保 智睦 (41) <令和3年10月> 博士(美術)
		鑑賞教育※
兼任	准教授	亀田 裕見 (51) <令和2年10月> 修士(文学)※
		総合講座VII※
兼任	准教授	小林 秀明 (59) <令和2年4月> 教育学修士
		教科概説「理科」 理科教育
兼任	教授	平 正人 (50) <令和2年4月> 博士(文学)
		歴史学 総合講座VI※
兼任	准教授	二宮 雅也 (42) <令和2年10月> 修士(体育学)
		総合講座VI※
兼任	准教授	福田 スティーブ利久 (42) <令和3年4月> Doctor of Education(米国)
		英語教育
兼任	准教授	船山 智代 (52) <令和2年4月> 博士(理学)
		科学思想史 総合講座I※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山川 智子 (47) <令和2年10月> 修士(学術)※
		総合講座VI※
兼任	講師	神田(漆間) 祥子 (41) <令和2年4月> 博士(文学)
		総合講座IV※
兼任	講師	嶋野 和史 (44) <令和2年4月> 博士(理学)
		総合講座III※
兼任	講師	橋 晋太郎 (40) <令和3年10月> 博士(芸術学)
		鑑賞教育※
兼任	講師	日沖(大塚) 敦子 (41) <令和2年4月> 博士(人間文化)
		総合講座V※
兼任	講師	松田(小林) 典子 (41) <令和3年4月> 修士(社会科学)※
		家庭科教育
兼任	講師	青木 詔司 (66) <令和4年4月> 文学修士
		フランス語III フランス語IV
兼任	講師	赤池 秀代 (65) <令和4年4月> 文学士
		トピックで学ぶ英語A トピックで学ぶ英語C
兼任	講師	天野 和彦 (56) <令和3年10月> 体育学修士
		視覚障害児の指導
兼任	講師	荒井 直孝 (65) <令和3年4月> 芸術学修士
		器楽表現基礎II ピアノ基礎技能演習
兼任	講師	板倉 稔 (65) <令和2年10月> 音楽学士
		音楽
兼任	講師	井上 知樹 (51) <令和2年4月> 修士(法学)
		法律学
兼任	講師	鶴澤 和彦 (59) <令和2年4月> 哲学博士
		論理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	山川 智子 (47) <令和2年10月> 修士(学術)※
		総合講座VI※
兼任	講師	神田(漆間) 祥子 (41) <令和2年4月> 博士(文学)
		総合講座IV※
兼任	講師	嶋野 和史 (44) <令和2年4月> 博士(理学)
		総合講座III※
兼任	講師	橋 晋太郎 (40) <令和3年10月> 博士(芸術学)
		鑑賞教育※
兼任	准教授	日沖(大塚) 敦子 (41) <令和2年4月> 博士(人間文化)
		総合講座V※
兼任	准教授	松田(小林) 典子 (41) <令和3年4月> 修士(社会科学)※
		家庭科教育
兼任	講師	青木 詔司 (66) <令和4年4月> 文学修士
		フランス語III フランス語IV
兼任	講師	赤池 秀代 (65) <令和4年4月> 文学士
		トピックで学ぶ英語A トピックで学ぶ英語C
兼任	講師	天野 和彦 (56) <令和3年10月> 体育学修士
		視覚障害児教育総論
兼任	講師	荒井 直孝 (65) <令和3年4月> 芸術学修士
		器楽表現基礎II ピアノ基礎技能演習
兼任	講師	板倉 稔 (65) <令和2年10月> 音楽学士
		音楽
兼任	講師	井上 知樹 (51) <令和2年4月> 修士(法学)
		法律学
兼任	講師	鶴澤 和彦 (59) <令和2年4月> 哲学博士
		論理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	海老原 光子 (67) <令和3年10月> 経済学修士
		子どもの健康と安全
兼任	講師	大石 昇 (63) <令和2年4月> 理学博士
		生理学
兼任	講師	辻本(大沢) 佳菜子 (40) <令和4年10月> 修士(教育学)
		子どもの食と栄養
兼任	講師	大坪 玲子 (52) <令和2年4月> 博士(学術)
		宗教学
兼任	講師	大久 珠緒 (50) <令和2年4月> 文学修士
		英語 I
兼任	講師	岡 真知子 (70) <令和2年10月> 学士(文学)
		英語 II
兼任	講師	岡田 彩香 (40) <令和3年4月> 修士(文学)
		フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	岡田 和子 (60) <令和4年4月> 博士(文学)
		ドイツ語 III ドイツ語 IV
兼任	講師	小川 治雄 (67) <令和2年4月> 理学博士
		化学
兼任	講師	尾花 英昭 (63) <令和2年4月> 芸術学士
		音楽
兼任	講師	笠原 正宏 (60) <令和2年4月> 文学修士
		情報 A 情報 B 情報 E
兼任	講師	梶谷 雄二 (64) <令和4年4月> 文学博士
		ドイツ語 III ドイツ語 IV
兼任	講師	金澤 貴之 (49) <令和4年4月> 修士(教育学)
		聴覚障害児の指導

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	海老原 光子 (67) <令和3年10月> 経済学修士
		子どもの健康と安全
兼任	講師	大石 昇 (63) <令和2年4月> 理学博士
		生理学
兼任	講師	辻本(大沢) 佳菜子 (40) <令和4年10月> 修士(教育学)
		子どもの食と栄養
兼任	講師	大坪 玲子 (52) <令和2年4月> 博士(学術)
		宗教学
兼任	講師	大久 珠緒 (50) <令和2年4月> 文学修士
		英語 I 英語 II
兼任	講師	岡田 彩香 (40) <令和3年4月> 修士(文学)
		フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	岡田 和子 (60) <令和4年4月> 博士(文学)
		ドイツ語 III ドイツ語 IV
兼任	講師	小川 治雄 (67) <令和2年4月> 理学博士
		化学
兼任	講師	尾花 英昭 (63) <令和2年4月> 芸術学士
		音楽
兼任	講師	笠原 正宏 (60) <令和2年4月> 文学修士
		情報 A 情報 B 情報 E
兼任	講師	梶谷 雄二 (64) <令和4年4月> 文学博士
		ドイツ語 III ドイツ語 IV
兼任	講師	金澤 貴之 (49) <令和4年4月> 修士(教育学)
		聴覚障害児教育総論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	神坂 亮一 (48) <令和2年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任	講師	菊地 優美 (32) <令和2年4月> 修士(人文科学)
		総合講座IV※
兼任	講師	久保田 幸子 (65) <令和2年4月> 文学士
		情報C 情報D 情報活用
兼任	講師	小谷 彰吾 (59) <令和4年4月> 修士(教育学)
		特別活動(総合的な学習の時間の指導法を学ぶ)
兼任	講師	鈴木(菊地) 知子 (56) <令和3年10月> 家政学修士
		乳児保育I 子育て支援ネットワーク論 乳児保育II
兼任	講師	篠原(丸山) 悦子 (46) <令和3年4月> 社会科学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	清水 洋貴 (44) <令和2年4月> 博士(文学)
		哲学 倫理学
兼任	講師	菅谷 孝義 (52) <令和4年10月> M.A. in New Literatures in English (英国)
		トピックで学ぶ英語B トピックで学ぶ英語D
兼任	講師	鈴木 教夫 (63) <令和4年10月> 修士(学校教育学)
		学級づくり論
兼任	講師	相楽 直子 (51) <令和4年4月> 博士(カウンセリング科学)
		チーム援助論
兼任	講師	藤井(鈴木) 仁奈 (41) <令和2年4月> 修士(文学)
		文学 英語Ⅱ
兼任	講師	立松 隆介 (63) <令和2年4月> 文学修士
		社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	神坂 亮一 (48) <令和2年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任	講師	菊地 優美 (32) <令和2年4月> 修士(人文科学)
		総合講座IV※
兼任	講師	久保田 幸子 (65) <令和2年4月> 文学士
		情報D 情報活用
兼任	講師	衛藤 敦 (68) <令和2年4月> 工学士
		情報C
兼任	講師	小谷 彰吾 (59) <令和4年4月> 修士(教育学)
		特別活動(総合的な学習の時間の指導法を学ぶ)
兼任	講師	鈴木(菊地) 知子 (56) <令和3年10月> 家政学修士
		乳児保育I 子育て支援ネットワーク論 乳児保育II
兼任	講師	篠原(丸山) 悦子 (46) <令和3年4月> 社会科学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	清水 洋貴 (44) <令和2年4月> 博士(文学)
		哲学 倫理学
兼任	講師	菅谷 孝義 (52) <令和4年10月> M.A. in New Literatures in English (英国)
		トピックで学ぶ英語B トピックで学ぶ英語D
兼任	講師	鈴木 教夫 (63) <令和4年10月> 修士(学校教育学)
		学級づくり論
兼任	講師	相楽 直子 (51) <令和4年4月> 博士(カウンセリング科学)
		チーム援助論
兼任	講師	藤井(鈴木) 仁奈 (41) <令和2年4月> 修士(文学)
		文学 英語Ⅱ
兼任	講師	立松 隆介 (63) <令和2年4月> 文学修士
		社会学



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田丸 淳哉 (63) <令和3年4月> 文学士
		社会科教育
兼任	講師	塚本 一雄 (70) <令和2年4月> 教育学士
		人権教育
兼任	講師	辻 敦 (51) <令和3年4月> 修士(体育学)
		スポーツと人間Ⅰ スポーツと人間Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ スポーツ・レクリエーションⅡ
兼任	講師	都留 覚 (65) <令和2年4月> 教育学士
		教科概説「社会」
兼任	講師	常盤 真紀 (56) <令和2年4月> 文学修士
		英語Ⅰ
兼任	講師	豊田 健介 (44) <令和2年4月> 博士(水産学)
		生態学 生物学
兼任	講師	中川 幸子 (67) <令和2年10月> <small>Master of Arts in Theater Directing, Speech &amp; Drama (卒)</small>
		英語Ⅱ
兼任	講師	中村 長史 (33) <令和2年10月> 学術修士
		国際学
兼任	講師	奴田原 諄 (46) <令和2年4月> 文学修士
		文学
兼任	講師	畑中 敏夫 (70) <令和4年4月> 文学博士
		フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ
兼任	講師	弘兼 加奈子 (63) <令和4年4月> 文学修士
		中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任	講師	福西 弘美 (64) <令和3年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	藤枝 静暁 (47) <令和3年4月> 博士(心理学)
		社会心理学 対人関係論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田丸 淳哉 (63) <令和3年4月> 文学士
		社会科教育
兼任	講師	山崎 恒郎 (65) <令和2年4月> 高学士
		人権教育
兼任	講師	辻 敦 (51) <令和3年4月> 修士(体育学)
		スポーツと人間Ⅰ スポーツと人間Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ スポーツ・レクリエーションⅡ
兼任	講師	都留 覚 (65) <令和2年4月> 教育学士
		教科概説「社会」
兼任	講師	常盤 真紀 (56) <令和2年4月> 文学修士
		英語Ⅰ
兼任	講師	豊田 健介 (44) <令和2年4月> 博士(水産学)
		生態学 生物学
兼任	講師	常盤 真紀 (56) <令和2年4月> 文学修士
		英語Ⅱ
兼任	講師	高島 亜紗子 (33) <令和2年10月> 修士(学術 EU研究)
		国際学
兼任	講師	奴田原 諄 (46) <令和2年4月> 文学修士
		文学
兼任	講師	畑中 敏夫 (70) <令和4年4月> 文学博士
		フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ
兼任	講師	弘兼 加奈子 (63) <令和4年4月> 文学修士
		中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任	講師	福西 弘美 (64) <令和3年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	藤枝 静暁 (47) <令和3年4月> 博士(心理学)
		社会心理学 対人関係論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	細田 秀一 (59) <令和3年4月> 芸術学士
		ピアノ基礎技能演習 器楽表現基礎Ⅱ
兼任	講師	堀 あきこ (亜紀子) (52) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		総合講座Ⅳ※
兼任	講師	町井 富子 (64) <令和3年10月> 修士(教育学)
		幼稚園教育実地研究
兼任	講師	増本 達哉 (46) <令和2年4月> 修士(ｽﾎｰﾌﾟ科学)
		運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ
兼任	講師	増山 光洋 (43) <令和2年4月> 修士(体育科学)
		運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ
兼任	講師	三森 ちかし (54) <令和2年4月> 修士(政治学)
		政治学
兼任	講師	森元 晶文 (49) <令和2年4月> 博士(商学)
		経済学
兼任	講師	安田 里沙 (43) <令和3年4月> 修士(音楽)
		ピアノ基礎技能演習
兼任	講師	山崎 俊明 (61) <令和3年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	山田 恵摩 (49) <令和2年4月> 文学修士
		英語Ⅰ
兼任	講師	鎌水 兼貴 (48) <令和2年4月> 博士(学術)
		言語学
兼任	講師	橋 櫻 (52) <令和3年4月> 文学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	吉川 知夫 (54) <令和4年10月> 修士(教育学)
		肢体不自由児の心理と指導
兼任	講師	吉川 延代 (62) <令和3年10月> 博士(心理学)
		家族心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	細田 秀一 (59) <令和3年4月> 芸術学士
		ピアノ基礎技能演習 器楽表現基礎Ⅱ
兼任	講師	堀 あきこ (亜紀子) (52) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		総合講座Ⅳ※
兼任	講師	町井 富子 (64) <令和3年10月> 修士(教育学)
		幼稚園教育実地研究
兼任	講師	増本 達哉 (46) <令和2年4月> 修士(ｽﾎｰﾌﾟ科学)
		運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ
兼任	講師	増山 光洋 (43) <令和2年4月> 修士(体育科学)
		運動と健康Ⅰ 運動と健康Ⅱ
兼任	講師	三森 ちかし (54) <令和2年4月> 修士(政治学)
		政治学
兼任	講師	森元 晶文 (49) <令和2年4月> 博士(商学)
		経済学
兼任	講師	安田 里沙 (43) <令和3年4月> 修士(音楽)
		ピアノ基礎技能演習
兼任	講師	山崎 俊明 (61) <令和3年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	山田 恵摩 (49) <令和2年4月> 文学修士
		英語Ⅰ
兼任	講師	鎌水 兼貴 (48) <令和2年4月> 博士(学術)
		言語学
兼任	講師	橋 櫻 (52) <令和3年4月> 文学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	吉川 知夫 (54) <令和3年10月> 修士(教育学)
		肢体不自由児の指導 発達障害・重複障害児教育総論※
兼任	講師	吉川 延代 (62) <令和3年10月> 博士(心理学)
		家族心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	寄川 真弓 (55) <令和3年4月> 修士(文学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	柳 郁子 (52) <令和3年4月> 修士(文学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ コリア語Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	寄川 真弓 (55) <令和3年4月> 修士(文学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	柳 郁子 (52) <令和3年4月> 修士(文学)
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ コリア語Ⅳ
		栗山 宣夫 (51) <令和4年10月> 修士(教育学)
		病児の指導
兼任	講師	川間 健之介 (59) <令和3年4月> 博士(教育学)
		肢体不自由児の心理・生理・病理※
兼任	講師	吉永 安里 (42) <令和4年4月> 修士(教育学)
		保育内容「言葉」の指導法

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 職位変更のため、浅野信彦准教授を教授に変更
- ・ 職位変更のため、石黒美男准教授(兼担)を教授(兼担)に変更
- ・ 職位変更のため、平 正人准教授(兼担)を教授(兼担)に変更
- ・ 職位変更のため、山川智子准教授(兼担)を教授(兼担)に変更
- ・ 職位変更のため、日沖(大塚)敦子講師(兼担)を准教授(兼担)に変更
- ・ 職位変更のため、松田(小林)典子講師(兼担)を准教授(兼担)に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、会沢信彦教授の担当授業科目に「教育相談の理論と方法」を追加
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小野里(小林)美帆教授の担当授業科目「障害児の心理と発達」の名称を「知的障害児の生理・病理」に変更し、担当者を成田奈緒子教授(専任)に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小野里(小林)美帆教授の担当授業科目「知的障害・重複障害児の心理と行動」の名称を「知的障害児の発達と心理」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小野里(小林)美帆教授の担当授業科目「知的障害・発達障害児の心理臨床」の名称を「発達障害・重複障害児教育総論」に変更し、吉川知夫講師(兼任)を追加
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小野里(小林)美帆教授の担当授業科目「発達障害児の心理臨床」を削除
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小野里(小林)美帆教授の担当授業科目を「心理検査法」の名称を「知的障害児の心理アセスメント」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、佐々木順二教授の担当授業科目「障害児教育方法」の名称を「知的障害児の指導」に変更し、小野里(小林)美帆教授の担当に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、小幡 肇教授担当の授業科目「生活科教育」を削除
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、高井和夫教授及び佐藤晋平准教授の担当授業科目「幼稚園教育実習Ⅰ」を「幼小教育実習Ⅰ」に、「幼稚園教育実習Ⅱ」を「幼小教育実習Ⅱ」に、「小学校教育実習」を「幼小教育実習Ⅲ」に、それぞれ科目名称変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、成田奈緒子教授の担当授業科目授業科目「病弱児・知的障害児の生理と病理」の名称を「病弱児の心理・生理・病理」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、成田奈緒子教授の担当授業科目「肢体不自由児の生理と病理」の名称を「肢体不自由児の心理・生理・病理」に変更し、川間健之介講師(兼任)を追加
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、成田奈緒子教授の担当授業科目「病弱・重複障害児の心理と指導」の名称を「病弱児の指導」に変更し、担当者を栗山宣夫講師(兼任)に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、授業科目「保育内容「言葉」の指導法」の担当者を藤森裕治教授から吉永安里講師(兼任)へ変更
- ・ 教育内容の充実を踏まえ、「心理学」の授業担当者を石橋昭良教授(兼担)から鍛冶美幸准教授(兼担)に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、高橋克己教授の担当授業科目「生徒指導・進路指導」の担当者に新井立夫教授(兼担)を追加
- ・ 授業担当予定者の退職により、「英語Ⅱ」の授業担当者を岡 真知子講師(兼任)から大久珠緒講師(兼任)に変更
- ・ 教育内容の充実を踏まえ、「情報C」の授業担当者を久保田幸子講師(兼任)から衛藤 敦講師(兼任)に変更
- ・ 授業担当予定者の退職により、「人権教育」の授業担当者を塚本一雄講師(兼任)から山崎恒郎講師(兼任)に変更
- ・ 授業担当予定者の退職により、「英語Ⅱ」の授業担当者を中川幸子講師(兼任)から常盤眞紀講師(兼任)に変更
- ・ 授業担当予定者の退職により、「国際学」の授業担当者を中村長史講師(兼任)から高島亜紗子講師(兼任)に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、金澤貴之講師(兼任)の担当授業科目「聴覚障害児の指導」の名称を「聴覚障害児教育総論」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、天野和彦講師(兼任)の担当授業科目「視覚障害児の指導」の名称を「視覚障害児教育総論」に変更
- ・ 教職課程認定審査の指摘により、吉川知夫講師(兼任)の担当授業科目「肢体不自由児の心理と指導」の名称を「肢体不自由児の指導」に変更

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	5	2	0	18	0	14	4	2	0	20	0
(13)	(5)	(2)	0	(20)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	5	2	0	18	0	12	4	2	0	18	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[+1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = 100\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{20} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0!\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1		該当なし								
2										
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1		該当なし								
2										
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1		該当なし								
2										
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年4月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。



## 7 その他全般的事項

### <教育学部 発達教育課程>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

1. 平成23年度より「文教大学教育研究推進センター」を設置した。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 教育研究推進センター全体運営会議  
（令和元年度）年2回/構成員計（教員16名、事務局1名）参加 各回平均15名の出席
2. 教育研究推進センター越谷校舎運営会議  
（令和元年度）年9回/構成員計（教員7名、事務局1名）参加 各回平均7名の出席
3. 教育研究推進センター湘南校舎運営会議  
（令和元年度）年9回/構成員計（教員8名、事務局1名）参加 各回平均7名の出席

###### c 委員会の審議事項等

1. 授業アンケートの実施・評価・活用に関すること
2. 授業スキルの向上に関すること
3. 教育の改善のための教員研修に関すること
4. 外部資金獲得の支援に関すること
5. 研究環境の改善に関すること

##### ② 実施状況

###### a 実施内容

1. 授業改善のためのアンケートの実施
2. 授業改善のための学生・教職員懇談会の実施
3. FD・SD研修会の実施

b 実施方法

1. 授業改善アンケートの実施

セメスター終了時に原則として履修者数が10名以上の授業で実施

2. 授業改善のための学生・教職員懇談会の実施

学生から授業運営に関する要望を主に聞くための場として学生と教職員との授業懇談会を実施。

3. FD・SD研修会の実施（大学における内部質保証推進の意義と本学における課題）

大学における内部質保証推進の意義と本学における課題について、講義を通して考え方を共有した。

4. FD・SD研修会の実施（改めて考える、これからの大学に求められるFD・SD）

大学教育に求められるFD・SDとは何か、本学におけるFD・SDには何が不足しているのか等について確認・共有し、本学の教育の質の向上と内部質保証に全学的・組織的に取り組む契機とした。

5. FD・SD研修会の実施（これからの企業人の在り方）

これからの企業人の在り方についての基本的な知識及びその能力を育成させるための知識を学んだ。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 授業改善のための学生・教職員懇談会

令和2年1月29日 開催（教員12名、職員5名、学生32名 参加）

2. FD・SD研修会（大学における内部質保証推進の意義と本学における課題）

令和元年4月2日 開催（教員156名、職員10名 参加）

3. FD・SD研修会（改めて考える、これからの大学に求められるFD・SD）

令和元年10月23日 開催（教員41名、職員7名 参加）

4. FD・SD研修会の実施（これからの企業人の在り方）

令和2年2月13日 開催（教員41名、職員2名 参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 研修会実施後は、教員個人が授業改善に向けて役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 令和元年7月及び令和2年1月に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

1. 質問項目ごとに集計及び経年比較を行い、学内専用ホームページに集計結果を掲載している。

また、教員一人一人に担当科目ごとに授業スキルのよかった点・改善を要する点等を集計・提供し、授業改善に向けて役立てている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和2年6月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページに掲載

③ 認証評価を受ける計画

・2015年度に評価機関(大学基準協会)の評価を受け、大学基準に適合との認定を受けた。  
評価結果は大学ホームページに公表済み

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和2年度)

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2~3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ①設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

###### (設置の趣旨・目的)

これまで教育学部が培ってきた「学校教育や保育に資する教育者の養成」という理念を発展させ、「教育及び保育に求められる社会的要請を理解し、生涯にわたり使命感を持ちながら自らの資質能力を高められる素養を備え、課程・専修に応じた専門分野を持つ教員・保育士等の養成」を目指す学部として位置づけ、学校教育課程と発達教育課程の2つの課程を置き、それぞれに特色を持つカリキュラムを設定する。これまで教育学部は、教育や保育に関わる専門的知識を持ち、様々な場面で子供を指導し支援できる教育力を持った教育者を養成してき、社会情勢の変化により教育者に求められる資質能力は多様化してきている。そこで、課程や専修に応じた専門分野を持ち現代の教育課題の解決に資する人材を養成することを目的に、これまでの学校教育課程（10専修）と心理教育課程（2コース）の2課程を、学校教育課程（9専修）と発達教育課程（4専修）の2課程に改め、それぞれの課程・専修の特徴を明確にした。それぞれの課程の特徴は以下の通りである。

###### 【学校教育課程】

- i 小学校教育を基本として、校種間の連続性と系統性を理解させたくて教科等の指導力を涵養する課程として位置づける。
- ii 特別支援学校教諭免許課程を廃止し、定員を250名から200名に変更する。
- iii 従来どおりの専修制のもと、3年次に進級する際に、学生の進路目標に応じ小学校教員又は中学校・高等学校教員に必要な科目を履修モデルとして提示し、教員としての専門性を持たせる。
- iv 小学校から高等学校までの教育課程全体を理解させたくて、自らの志望する校種での専門教科の教育力を有する教員を養成する。また、教育の基礎理論を理解させ、生徒指導や教科外指導（特別活動、道徳等）に力のある教員を養成する履修モデルも提示する。

###### 【発達教育課程】

- i 心理教育課程における「教育学・心理学・保育学に基づく乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの『心の教育』を担う人材の養成」という理念を発展させ、「乳幼児期から青年期までの発達段階と教育のあり方を理解させ、多様な子供の発達を支援する教育者（保育士、教員等）」を養成する課程として位置づけて、名称を発達教育課程とする。
- ii 小学校教諭免許課程及び特別支援学校教諭免許課程の認定を受け、定員を100名から150名に変更する。特別支援教育専修、初等連携教育専修、児童心理教育専修、幼児心理教育専修の4専修を設け、それぞれに専門性を持つ教育者を養成する。
- iii 全ての専修で特別支援教育に関する科目及び初等教育の基礎理論と指導技術に関する

科目の履修を可能とし、子供の多様性を理解し、その発達を支援できる基礎を習得させる。

iv 幼稚園教員養成課程と小学校教員養成課程は共通開設となることから、幼稚園教育と小学校教育の接続を理解した教育者の養成を行う。

#### 1. 教員の就任状況について

発達教育課程の設置にあたっては、心理教育課程の11名に加え、学校教育課程から4名の移籍、令和2年4月1日付けで新たに5名の教員が着任した。これにより令和2年度の発達教育課程所属の教員は20名となった。

#### 2. 施設設備等の準備状況について

施設設備等については、従来の教育学部の施設設備を利用することで、問題なく稼働している。

#### 3. 志願状況及び入学者数について

令和2年度の学生募集を行った結果、下表のとおりとなった。

教育学部	学科	募集人員	志願者	入学者	昨年度志願者
	学校教育課程	200	5,441	220	6,638
	発達教育課程	150	2,075	151	1,120
	合計	350	7,516	371	7,758

#### 4. 総括評価

令和2年度入試において、教育学部全体（募集定員350名）では、志願者総数は7,516名であり、令和元年度入試における志願者数に比べ約200名の減となった。しかし、定員に対しても志願者は、20倍を超えており、変わらず高い水準にある。一方、新設の発達教育課程は、昨年までの心理教育課程に比べ、約40パーセントの増になった。これは、特別支援教育専修が、学校教育課程から発達教育課程に移ったことも要因であるが、全く新しい初等連携教育専修が加わったことで、従来の心理教育課程にはなかった魅力と学校との違いが明確になり、幼少接続教育に関心の高い受験生を呼び、580名の大幅増に繋がったと考えられる。

今回の改組の主体は、従来の心理教育課程を母体として新たに発達教育課程を設置したことで、設置定員を見直し、教員組織も充実させ、これまでの幼稚園教諭免許の課程認定に加え、小学校教諭及び特別支援学校教諭免許課程の認定を受けた。これにより、乳幼児期から青年期までの多様な子どもの発達を支援出来る教育者、幼稚園教育と小学校教育の

接続を理解した教育者の養成が可能となり、これまで以上に教員養成学部としての質と幅が広がったと考えている。

今年度は、広報活動を通して新しくなった教育学部の魅力を受験生にアピールすることに努めるとともに、在学生の満足度を高めて、評価につなげていきたい。

## 文教大学教育研究推進センター規程

(目的)

**第1条** この規程は、文教大学（以下「本学」という。）学則第67条に基づき、文教大学教育研究推進センター（以下「センター」という。）の組織及び管理運営に必要な事項を定め、センターを効果的に管理運営することによって教員の教育研究活動に対して必要な支援を提供し、もって本学の教育研究の水準を向上させることを目的とする

(設置)

**第2条** センターは、本部を旗の台校舎に置き、支部として、越谷校舎及び湘南校舎にそれぞれ教育研究推進センター越谷及び教育研究推進センター湘南（以下「校舎センター」という。）を置く。

(事業等)

**第3条** センターは、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事業等を行う。

- (1) 本学の教育改善及び研究推進を目指す事業
- (2) 本学教員の教育・研究推進に関わる資金獲得に向けての支援
- (3) 教育及び研究に関わる外部機関との連携の支援
- (4) 大学組織及び教育・研究に関わるデータの収集・管理に関する事務及び事業
- (5) その他本学の教育研究水準向上に資する事業

2 センターは、前項の事業等を計画・実施する際、大学院を含む本学の教育研究組織と十分な連携をとり、効果的な事業等を適切に実施できるように努めなければならない。

(センターの構成)

**第4条** センターは、次の者をもって構成する。

センター長	1名	
センター次長	2名	(各校舎1名)
センター主任	13名	
事務組織責任者	1名	
事務職員	必要と認めた人数	

(組織)

**第5条** 第3条に規定する各事業を遂行するため、校舎センターに次の部門を置く。

- (1) 教育推進部
- (2) 研究推進部
- (3) 連携推進部
- (4) 調査部

2 前項に関わらず、課題によってセンター全体で取り組むこととし、その場合は、所属部門に関わらずセンター主任による担当チームを置くことができるものとする。

3 前項の担当チームの設置及び構成は、センター長が決定する。

(センター長)

**第6条** センター長は、学長の命を受けセンターの運営方針を決定し、その事業を統括する。

- 2 センター長は、毎年度の終わりに当該年度の事業の成果及び次年度の事業計画を学長に報告し、承認を得なければならない。
- 3 センター長は、センターの業務遂行状況について、適宜学長に報告し、また、協議するものとする。
- 4 センター長は、全体運営会議を開催し、議長となる。
- 5 センター長は、第5条第1項に規定する部門の事業を全学的な方針のもとに進めるため、両校舎合同の部門会議を開催し、各部門の業務遂行に必要な事項を協議する。
- 6 センター長は、本学の副学長の中から学長が任命する。ただし、副学長不在の場合は、本学の専任教員から学長が任命する。
- 7 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 8 センター長が任期途中で交代した場合、後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター次長)

**第7条** センター次長は、センター長の命を受け、所属する校舎センターに設置する各部門の連携及び調整を図るとともに、校舎の教育推進部の責任者となり、また、校舎センターの業務を統括する。

- 2 センター次長は、校舎運営会議を開催し、議長となる。
- 3 センター次長は、各校舎の専任教員の中から学長が任命する。
- 4 センター次長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 センター次長が任期途中で交代した場合、後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター主任)

**第8条** センター主任は、第5条に規定する部門のいずれかに所属し、センター長の命を受け、その業務を遂行する。

- 2 教育推進部に所属するセンター主任は、各学部1名ずつとし、当該主任の任期満了の1カ月前までに学部長の推薦に基づき学長が任命する。
- 3 研究推進部、連携推進部、調査部に所属するセンター主任は、部門ごとに各校舎1名ずつとし、当該主任の任期満了の1カ月前までに学長が任命する。
- 4 センター主任の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 センター主任が任期途中で交代した場合、後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(各部門の構成及び所掌事項)

**第9条** 第5条に規定する各部門の構成及び所掌事項は、次の各項に定める通りとする。

#### 1 教育推進部

##### (1) 構成

教育推進部は、センター次長及び第8条第2項による主任で構成する。

##### (2) 業務

教育推進部は、以下の業務を遂行する。

- ア、授業アンケートの実施・評価・活用に関すること。
- イ、教員の授業スキルの向上に関すること。
- ウ、教育の改善のための教員研修に関すること。



- エ、教育環境改善方策に関すること
- オ、その他、第3条の事業を推進するために必要なこと

## 2 研究推進部

### (1) 構成

研究推進部は、第8条第3項による主任で構成する。

### (2) 業務

研究推進部は、以下の業務を遂行する。

- ア、外部資金獲得の支援に関すること
- イ、研究環境改善方策に関すること
- ウ、学長調整金による研究等支援の手続きに関すること
- エ、学術図書出版助成の手続きに関すること
- オ、研究倫理関係書類の保管に関すること
- カ、その他、第3条の事業を推進するために必要なこと

## 3 連携推進部

### (1) 構成

連携推進部は、第8条第3項による主任で構成する。

### (2) 業務

連携推進部は、以下の業務を遂行する。

- ア、地域大学等とのコンソーシアムの推進に関すること
- イ、産官学連携の推進に関すること
- ウ、その他、第3条の事業を推進するために必要なこと

## 4 調査部

### (1) 構成

調査部は、第8条第3項による主任で構成する。

### (2) 業務

調査部は、以下の業務を遂行する。

- ア、学生生活調査の実施に関すること
- イ、本学の教育及び研究に関する各種統計の収集及び管理に関すること
- ウ、教員の教育研究業績の管理及び公開に関すること
- エ、その他、第3条の事業を推進するために必要なこと

(部門の運営)

**第10条** 第5条に規定する各部門の運営は次の各項に定める通りとする。

### 1 教育推進部

- ア、校舎の教育推進部は、センター次長を中心に校舎における教育推進部の業務を遂行する。
- イ、教育推進部は、教務委員長、学部教務委員長等との連絡会を持つものとする。
- ウ、前号の連絡会は、両校舎合同で開催する場合はセンター長が招集し、校舎ごとに開催する場合はセンター次長が招集する。

エ、教育推進部の各主任は、各学部の教授会に必要な連絡及び報告を行い、連携を良くして教育改善の取り組みを進めなければならない。

## 2 研究推進部

ア、研究推進部主任は、校舎における研究推進部の業務を遂行する。

イ、研究推進部は、研究所長との連絡会を持つものとする。

ウ、前号の連絡会は、両校舎合同で開催する場合はセンター長が招集し、校舎ごとに開催する場合は研究推進部主任が招集する。

## 3 連携推進部及び調査部

ア、連携推進部及び調査部の主任は、所属する校舎におけるそれぞれの部門の業務を遂行する。

4 第5条に規定する各部門は、センター長が開催する両校舎合同の部門会議を通じ、全学的な方針に基づいて業務を遂行するものとする。

(全体運営会議)

**第11条** センターの運営方針を確認し、センター全体の業務遂行状況を把握し、構成員相互の意思疎通を図り、業務を効率的に実施するため、全体運営会議を開催する。

2 全体運営会議は、次の者をもって構成する。

(1)センター長

(2)センター次長

(3)センター主任

(4)事務組織責任者

(5)その他センター長が必要と認めた者

3 全体運営会議は、年2回開催することを原則とし、必要な場合は臨時にこれを開催できるととする。

4 全体運営会議で協議された事項は、センター長が学長に報告する。

(校舎運営会議)

**第12条** 校舎センターの業務遂行状況を把握し、構成員相互の意思疎通を図り、業務を効率的に実施するため、校舎運営会議を開催する。

2 校舎運営会議は、次の者をもって構成する。

(1)当該校舎センターに所属するセンター次長

(2)当該校舎センターに所属するセンター主任

(3)事務組織責任者

(4)その他センター次長が必要と認めた者

3 校舎運営会議は、毎月1回(8月を除く。)開催することを原則とし、必要な場合は臨時にこれを開催できるととする。

4 センター次長は、校舎運営会議で協議された事項について、センター長に報告する。

(事務)

**第13条** センターの事務は、大学事務局長が指名した部局が主管する。

(改廃)

**第14条** この規程の改廃は、大学審議会の議を経て学長が決定する。

**附 則**

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 文教大学及び文教大学女子短期大学部教育・研究推進委員会規程は、廃止する。

**附 則**

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、令和2年4月1日から施行する。